

第2章

【その1】 equal condition からのスタート

ルールの三つの意志夫々に考えられる三つの言いかえれば視点に進みます。道標は二つのことが基盤の上に成り立っています。一つはラグビーは身体全体を駆使して発想を生かした自由活発なプレーを楽しむ競技という基本姿勢推進です。二つ目はボールを獲得し所有している側優先で選択肢が与えられるということです。尚 equal condition (同等状態) は数だけの問題ではありません。行なわれる時機・方法等々いろいろな面で平等・公平が問われます。適用に当っては free (自由)、flair (発想)、priority (優先権) の三つの言葉が重点となります。頭の隅において考察していきましょう。equal は古い時代には正しい (just)、公平な (impartial) といういみでも使われていました。ただの same (同じ) ではないのです。

チームの人数の問題から始めます。草創期は村や町が団結して一丸となって近くの村や町同志 football 競技 (folk-game ともいう) を戦った時代の人数は無制限で一方が 90 から 150 人位いたとも記述されています。多すぎて困乱続きで人数を減らす方向へと向いました。人数はグラウンドの大きさに関係が深いです。村や町の中で戦われたのが選手にも住民にも好ましくないということで平原を選ぶようになりグラウンドの改善は人数の制限を加速し双方同人数が当り前のことになり、20 人位の選手とそれに見合う位の平原の広さが追求されるようになりました。ゴールラインとタッチラインを明示した正方形に近い四角形になり 1870 年代に入って縦 120 ヤード横 70 ヤード、更に横中を縮めて 55 ヤード等改善が加えられ、1879 年には縦 110 ヤード以内横 75 ヤード以内と形が定着し Law の中にも定文化されました。以後永い間これがラグビーの理想型として採用されました。グラウンドと並行し人数も変遷があり双方同数は当然のこととして 1870 年始めの頃は 1 チーム 20 人になり、1875 年に university の試合が 15 人になり、1877 年には I.B. が 1 試合は 15 人でと提唱し話し合いをして共通理解がなされました。1892 年には 15 人で行うべきと定着し条文となっています。それはグラウンドに対する理想的な人数とされています。人数の変遷と併行してグラウンドの形、大きさについても話し合われました。1905 年縦 110 ヤード横 75 ヤードにおちつきました。

いくつかのプレーについて細かくみていきましょう。スクラムは双方同数 8 人で組みます。過去に 8 人に対し 7 人で組むチームがありました。15 人の配置については自由でした。現在は同数のプレーヤーが同じ 1~3 列の組み方でレフリーの「クラウチ」、「バインド」、「セット」の指示に従って組みます。人数もレフリーの指示も equal condition の確保と安全重視の表れであることは言うまでもありません。その上でボールを入れる側はそのタイミングをきめる優先権を行使することになります。

ラックは各チームから少なくとも 1 名ずつのプレーヤーが接触しており、立ったままの状態、地面にあるボールに被っていることで形成され、モールはボールキャリアーと各チームから少なくとも 1 名ずつのプレーヤーが互いにバインドし立ったままの状態になることで成立します。形成基盤に必要な人数が決められている点で equal です。実際に双方複数人による集団となることが多いです。ラックもモールも流動的でプレー継続のためのボール獲得をめぐる自由で活発な活動がなされます。

タッチについては投げ入れる側の自由選択肢を保証しながら equal condition 保持にいろいろ工夫がなされています。タッチになった場合のクイックスローは自由選択そのもので投入地点に不在の相手側は加わる資格も能力もないのですから全く相手の自由です。

ラインアウトでは投げ入れる人と受ける人が必要としています。それで相手側もタッチラインと 5m ラインの間に equal にする 1 名のプレーヤーがいることがラインアウト形成の必要条件になっています。並んで

ボールを受けるプレーヤーについては投入チームが最大人数をきめます。優先権を保ち乍ら equal condition を損なわない方策として目的にかなうものです。

以上三つのプレーについて例をあげて述べましたが kick off から no side まで終始 equal condition から試合が始まり equal condition で継続プレーが行なわれ open play が展開されるようにルールは一つ一つ積み上げられ形成をされていったのです。

kickoff の話が出ましたので kickoff についても一つ古い話があります。日本代表チームがカナダへ遠征した時のことです。試合最後のキックオフで日本のメンバーの一人が負傷し 14 人で戦わざる得なくなりました。当時のルール即ちメンバーチェンジは認められないというルールでした。その時ですカナダチームから 14 人同等にして試合を進めるといふ申し入れがありました。日本は始め承諾しなかったのですが結局カナダの申し出通り双方 14 人で戦ったという事件がありました。ルールを越える友情表現です。

2020/06/28

西川 義行